



夏休みも終わり、9月1日より2学期がスタートしました。新型コロナウイルスの感染拡大は、収まる気配が見られず、まだまだ心配が続いています。各校とも徹底した感染対策のもとでの学校活動に取り組まれていることと思います。

今回は、8月6日に行われた夏季研修会「あがらの夏」の研修会の様子と、8月1日2日に行われた第45回全国高等学校総合文化祭（紀の国わかやま総文祭2021）について紹介したいと思います。

令和3年度 夏季研修会「あがらの夏」



本校では、校区内に所在する学校職員が互いに連携し、障害のある児童生徒の教育活動の充実を図ることを目的に毎年研修会を開催しています。今年度は、中学校段階から高等学校段階に至る移行及び進路選択の現状と課題について情報共有を図りました。

前半は、グループに分かれて参加いただいた先生方と現在の進路学習等の取組や課題を報告し合いました。

後半は、「本校の高等部について」をお伝えしました。また、熊野高等学校坂東先生より「高等学校通級指導教室の取り組み」のお話をさせていただきました。

多くの先生方と支援学級に在籍する生徒の進路学習について意見交換できる貴重な機会になりました。

来年度も地域の先生方と本地域の特別支援教育のさらなる充実を目指して、一緒に考える会を計画したいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

参加いただいた先生方の声

たくさんの参加ありがとうございました。

- ・生徒が主体的に進路選択できれば、納得した進路先で将来についても主体的に考えていけるのではないかとということがよく理解できた。
- ・進路先の情報を集めて、多くの選択肢を提供し、保護者と話し合いながら最終的には本人の意見を尊重することが大切ということに改めて思った。



参加いただいた先生方と進路の選択においては、生徒が主体的に考えていけることが大切だということを再確認しました。また、そのために、自分の強みや弱みを考えたり、それらをしなやかに受けとめたり、自分を理解する学習も大切だということが分かりました。たくさんのご意見ありがとうございました。



第45回全国高等学校総合文化祭(紀の国わかやま総文祭2021)

8月。夏らしい強い日差しの中、紀の国わかやま総文祭(以下総文祭)が開幕しました。総文祭は、県内各地を会場にして、将棋や俳句、郷土芸能等様々な部門に全国の高校生が集う“文化部の国体”といわれる大きな大会です。総文祭には「特別支援学校部門」も設置され、本校高等部からは、ステージ発表やメッセージ甲子園、物品販売の取り組みに参加しました。

ステージ発表では、27名の音楽A班の生徒たちが、アニメ「鬼滅の刃」の主題歌【紅蓮華】の合奏を披露しました。生徒たち一人ひとりが朝昼放課後と授業以外の時間のほとんどを費やして練習に励んだ約1年間。時には上手く演奏できない悔しさから、また時には仲間たちとリズムを上手く合わすことができない歯がゆさから涙を流す場面も見られました。本番前の夏休み期間にも自主練に取り組み、発表当日には、キーボードの主旋律、ベースの重低音のリズムに合わせて大太鼓やスネアドラム、木琴、鉄琴等の打楽器が息の合った演奏を披露することができ、会場から大きな拍手と賞賛をいただきました。

メッセージ甲子園は、「全国におおきにを伝えよう」をテーマに各校が発表し、本校からは、2年生の学習グループが、【バトンでつなぐありがとう】という内容のビデオ発表をおこないました。“私も誰かにありがとう。誰かも私にありがとう。ありがとうの輪が広がると気持ちがいいね。”という生徒のナレーションが心地よく、会場が温かい空気に包まれました。



物品販売では、作業学習物作り班(木工、窯業、皮革、縫製)の製品を販売しました。製品の質はもちろんのこと、陳列している製品の量についても、他校の先生や他府県から見えられた先生方から良い評価をいただき、担当の職員が質問攻めに合う場面が印象的でした。

また、今回の大会については、県内12校の盲ろう特別支援学校の生徒たちも生徒実行委員会の運営に携わりました。約2年に渡る準備期間中、リモートを中心とした交流を深めながら様々な提案や協議だけでなく、マナーや話し方講座等の座学にも取り組み、本校から参加した2名の生徒は、期間中会場の受付を担当しました。

本校の取り組みや参加した生徒一人ひとりの姿を通して、感謝と感動を全国に届けることができた総文祭。2021年夏の忘れられない素晴らしい経験となりました。



物品販売